

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成27(2015)年
6月号
通巻538号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成27年6月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



岩手県宮古市 浄土ヶ浜 (三陸復興国立公園) H27.5.12 あじさい邑 山崎正知さん撮影

平成5(1993)年5月23日 月次祭法話より

幸せは、お付き合いの輪を広く持つことから

法主 矢追日聖 (満81歳)

永續する幸せはない

今日は日曜日で、皆さんも何かと予定があったと思いますけども、こうしてお出で下さって嬉しく思います。

五月というのは数字のちょうど真ん中になりますので、気を付けないと何かの事が起こる時なんです。木の芽が出てきて新緑の頃で、さわやかな五月ですけども、我々の肉体の何億という細胞は全部、自然の気によって動いているのですから、自分の持つておる例えば持病のようなものでも出てくるんです。特に健康に気を付けてほしいと思います。

最近ですね、テレビなんかで宗教団体のこと、あるいは霊能、霊能者とか宗教関係の放映が割合多くなつてまいりました。皆さんがそれを見た時、信じるのはいいんですけども、半分、やっぱり疑うことも必要ですよ。ああして出てくる人達を批判してるんじゃないんですが、私から見れば案外、本当にそうだなと信じられるものは殆ど無いということです。そらまあ見ておいていいけど、半分は疑っていく。半々ぐらいが一番いい。盲目に信じると、とんでもないことになるんです。

…この大倭も宗教ということですが…

我々人間は誰でも、幸せに一生を送りたいと願っております。そうしたら何が幸せなのか、あなた達、自分で考えてもらいなさい。その人の家庭とか年齢とか

生まれた環境とか、いろんなものの中においてのことやけれども、結局、喜びを持つ時間だけが幸せやと思うんところがうかな。だから幸せというものは、常に瞬間的なものでね、永続するものではないと思うんです。

結婚する時でも、恋愛時代はお互いに舐(な)めても可愛いような両方の関係やと思うけれども、その内、三カ月経ち四カ月経ち慣れてくると、ぼちぼち夫婦げんかが始まるんです(笑)。自分の思惑通りにならなかつたら腹が立つ。そうすれば人生の若い時の、結婚する前後だけが一番幸せであって、それ以外はもう苦痛になる。昔から結婚は人生の墓場だと言われるようなこともあるんですよ。

けれども人間は、例え瞬間でもいいからね、何にでも喜びを持つ時間があつたら結構やと思います。言うてる私も数え八十二歳になりますからいろんなことを経験してますが、今こうして皆さんが大勢お出でになつてる、その前でえらそうな顔して喋れる、この瞬間が非常に幸せですね。永続性はありませんけれども、瞬間的であつても数多く、いろんな種類の喜びが連続的につながつていったら、人生は一番結構やと思うんです。

皆、何かにすがりたい

人間には皆、弱みがあるんですよ。自分自身で自分を保護していったらいいんやけど、自分では保護する力が鈍いという気持ちになつて、何か自分以外の力を求めていくような弱みというのがあるんです。もうちょっと力のある人の意見を聞き、そしてお手伝いをしてもらいたいというような、そんなのは誰にでもあるんです。私にもありますよ。私はもうしょっちゅう神さんにすがつてるからね。ま、何かにすがりたいというのが、人間に

は皆あるんです。

そういう時の指導者になる人が、昔からようけ居ります。例えばインドのお釈迦さんね、これは大きな指導者ですわね。それからその流れにおけるぎょうさんのお坊さん・出家さん達が指導者ということになります。この指導者にすがつて、皆が集まつていくと、一つの団体というような形のものが出来てきます。

ところが宗教団体になってきますと、「団体我」というものが出来てしまうんです。そうすると自分達の宗教が唯一絶対のものである、自分が信じておる宗教が一番良いんや、それ以外の宗教は良くないんやという、差別的な気持ちを持つようになってくる。宗教に入ったために、差別心を持つということとは、宗教の精神に逆らつてます。

宗教というのは、その逆なんです。人間は差別してはいけない。優越感を持つたらいけない。また劣等感を持つてもいけない。みんな平等だというね、平等感を持つて日日暮(ひぢぢ)らしていくのが良いんや。

けれども極端な宗教団体に加入すると、もうよその宗教は全部ダメだというような気持ちになつてしまうんです。自分の宗教だけが良いんやという優越感が出てくる。

だから宗教団体は無い方が良く私は思つてるんやけど、この大倭教もね、社会の制度では宗教法人という宗教団体になつとんねん。やっぱり宗教的な仕事をしていくとなると、日本は法治国やから、ある程度、国の制度に従つていかなければまともな仕事ができないんです。

宗教団体になくてもいい

それで大倭教という宗教団体をつくつておりま

すけれども、別に大倭教みたいなもの無くてもいいんですよ。我々一人一人がね、幸せになつていくような人間作りさえできれば、宗教団体でなくてもいいんです。

宗教団体が無い方がかえつて世の中が穏やかかもしれない。最近の宗教を見ていると、ケンカしている宗教団体がたくさんあります。日本だけやありません、世界でもね、宗教が違ふというので血を流して殺し合つてるような場合もあるし、一体、宗教って何やということになるんですね。

だから、日本は法治国で仕方ないから大倭教という看板を出していますけれども、宗教団体やと思つてもらつたら困るんです。私は、ここへ集まつてくる人は大倭教の信者だという気持ちで見えておりません。私個人の同僚、同じ仲間なんです。

そこには一人一人、生まれてきた宿命というものがある。私は何か知らんけれども、皆さん方の相談を受けるような宿命で生まれてきているだけであつて、ちよつともえらくも何でもないんです。あなた達と何にも変わらんのです。

依存心は破滅の第一歩

我々が幸せに生活していくには、人間と人間という人間同士の交流が一番大事やと思います。言い換えると、お付き合いの輪が広い人ほど幸せやと思います。やっぱり孤立したらダメですよ。

自分の心で相手を弾いていくような、いわゆる利己主義的な心を持つておれば、人は嫌がりますよ。あの人とお付き合いするのは嫌やということになつてくる。

だから、誰でも心安く喜んでお付き合いできるような人間を作るといことがね、幸せになつていく、これ、根本なんです。宗教というのは人

間形成の問題なんです。人間的に向上していくように、お互いに修養し錬磨していくのが宗教の世界やとおるんです。

神さん仏さんはご本尊ということになってますけれども、ご本尊にすがってばかりおったかたてダメなんです。そういう依存心を持つということとは破滅の第一歩ですよ。人間同士でも、宗教団体に対してでも一緒やけども、盲目に信じるということとは破滅なんです。

だからして、神さん仏さんが前にあっても、これは単なる鏡である、と、そう考えるのが一番良い。鏡というものは、自分の姿を映す対象物なんです。それにすがって助けてもらおうとか、拝んだら神さん仏さんが幸せにしてくれとかいいうのは、これ、絶対に嘘なんです。そんなもの信じたら、あなた達、とんでもないことになりますよ。

神さん仏さんなんか、絶対に助けてくれませんよ。助けてくれるのは、人間なんです。人間の苦しみは、人間が助けてくれるんです。

肉体のある人間と肉体の無い人間

人間、人間と私は言っていますけれども、人間にも、肉体の持つておる人間と肉体の持たない人間という二つの種類があるんですよ。過去に人間として生きて、死んだとしても、心、いわゆる靈魂はなくならない。それが肉体の持たない人間なんです。

その形の無い人間が助けてくれたり、また逆に障害を与えたりね、生きてる人間と同じ関係があるんですがね。これは信じてもらったらいいと思うんです。

我々は肉体を持つている半面、心を持つております。皆さんは、今日は大徳の月次祭やからお参

りしようかと、朝、起きた時に思わはった。そういう心に、肉体は後から付いてくるんです。そうすれば生きておる個人の中の人間にも、形のある人間と形の無い人間というような二つの面があるんですよ。

それをもっと拡大すれば、こうして生きてる人間と、昔において死んでおる人達が肉体は無いけれども靈魂があるということ。それをあなた達に知ってもらおうと思う。そういうことはね、やっぱ信じてもらったらいい。

それで、生きてる人間同士が仲良うする必要があることが分かっておれば、形の無い人間とも仲良くしなければいけないんです。私は、それが人間の幸せになっていく根元の原則だと考えています。

形の物を供えて交流する

肉体の持つている人間と、肉体の持たない人間がまず仲良くすること。今日の二十三日の月次祭の祭典というのは、それがためにやっておるんです。あなた達の何億というご先祖さんがね、みんな関係しているんですよ。皆、親がおりお祖父さんお祖母さんがおり、そのまた上がおりと遡っていくと、肉体の持たない、いわゆる靈界の人間さんが、あなた達の関係者だけで何億というぐらい居てはるんですよ。

あなた達が坐ってはたら、そういう肉体の持たない人達が全部、ここに集まってきてるんです。向こうにも居る、ここにも居る……皆さんと共に靈界の人達が遍満しておるんです。

肉体の持つている我々はご飯やいろんな物を食べます。靈界の人も心で食べるんですよ。だから姿の物は必要なので、三方にお供えをします。

けれども祭壇の方に向けてないでしょ。皆さんの方に向けてお供えしてあるんです。

靈魂には、頼っていいこう寄っていいこうという物、依代よしろというのが必要なんです。だから、この場合は、大きな石が一つ置いてあるんです。磐座いわくらと言うんです。磐座も靈魂の依代の一つなんです。お社も依代です。

あなた達の肉体、生きてる肉体も、これやっぱり依代として、靈魂が宿ってることがあります。自分自身の靈魂以外の靈魂が住まいするようになる場合も出てくるんですよ。そういう意味では、常に肉体のある我々と肉体の持たない人が仲良く交流していかないといけない。

自然神・人格神への信仰のあり方

我々は神さんという言葉を使っていますが、神さんには自然神と人格神という、二つの種類があるんですよ。

自然神は、天地自然の宇宙の気です。宇宙の力が、天津神さんやわね。そして肉体の持たない人が人格神です。

自然神に対して、昔の人は太陽を中心として信仰をしたんです。今、電気が灯っていますけれども、これも宇宙の力、天津神さんのご利益なんです。あるいは電波も、掘り出したガソリンで車を走らせているのも全部、自然神の変化の姿です。

だから今の世の中で、「文明、文明」と我々は喜んでるけれども、自然界を大事にするとか感謝するという気持ちを持たないといけません。こんなんだ電気で動いているだけやないかという心ではダメですよ。自然の力で便利な物が出来てきた、ありがたいなと感謝する心を持たんとあかん。農産物でも、それが無かったら我々は生きてい

くことができないうんです。だから今日のおかずは「まづい、いらん」とかぜいたくを言わず、何でも喜んで食べるような心とか行為、それが天津神さんに対しての礼拝の意味なんですよ。

天地自然を大事にすると言うのも、まあおかしいわな。これはもう絶対的に帰依しなければいけないんです。夏になって暑ければ裸になり、冬になったら風邪をひかんように厚着をしたらいいんですよ。自然の心に添うていくということが、天津神さん、自然神に対しての信仰のあり方なんです。

人格神に対しては、毎朝起きた時にお茶とかご飯のような形の物をまずお供えして、お互い仲良くしましょうという挨拶をして、それを通して交流することが一番必要なんです。それが人格神への礼拝、信仰の仕方なんです。そうしておれば、「幸せにして下さい、ご利益下さい」なんてね、わざわざ言わなくていいんです。

百まで生きる人は少ない、どうせ我々はいつか消えていくんやから、命のある間は喜んで楽しく暮らしていく。それには、一番身近なことで言えば、知り合いの仲間が皆、仲良くしていくことです。何か苦痛があれば相談していく、そしてお互いに助け合うという心でお付き合いをする。拡大して言うたら、いわゆる社会福祉の心を持つ。その輪をちよつとも広く持つほど、人生は幸せやと思うんです。

ま、今日はちよつと難しい、訳の分からん話になりましたけど、五月というのはこわい月なんです。皆さんも何かにつけて、例えば車に乗っている人は特に交通事故に気を付けるとか、食べる物でも気を付けて肉体のどこかに故障の起こらんようにとか、病気になるように注意してほしいなと思います。終わります。(文責・編集部)

第325回大倭会文化行事報告

国史跡・藤ノ木古墳を訪ねて

あじさい色 李 章根

矢追鈴月かあさんの御命日にあたる4月19日は朝から雨だったが、10時40分、法隆寺南大門前に参加者10名が集合した頃には晴れ間がみえ次第にあたたかな恵まれたお天気となった。

法隆寺の西側、西里ののどかな集落を抜けるときれいに整備された藤ノ木古墳(6世紀後半)に辿り着く。円墳を一周してから、今回御同行して頂いた金宇大さん(写真右端、FIWCのキャンパー、奈良文化財研究所所員)のお話を伺う。

横穴式石室に入って家形石棺を開くと、そこには成人男性2人が合葬されていたという。被葬者は所説ある中、欽明天皇と小姉君(蘇我稲目の娘)の皇子で、有力な皇位継承者だったという穴穂部皇子と宅部皇子(穴穂部皇子と兄弟、又は宣化天皇の皇子ともされているが詳しくは分からない)ではないかという説が有力視されている。穴穂部皇子は聖徳太子の叔父であり、蘇我馬子に暗殺されたことが発端となって、蘇我と物部の争いが激化していったようである。



次いで斑鳩文化センターで副葬品を見ると大和はいかに大きくアジアに開かれたのかがわかる。金さんの解説によって、ぐいぐいと考古学の魅力に引きこまれていった文化行事でした。

第326回大倭会文化行事報告

天田神社・伝王仁博士塚を訪ねて

大阪府枚方市 林 修三

爽やかな気候の5月17日午前10時、JR東西線の河内磐船駅に14名(男6・女8)が集合。



まず磐船駅から徒歩5分程の「天田神社」へ(写真)。古代の面影をわずかながらも留めている社である。ここ交野地方は古代肩野物部氏の住まいした場所であり、その祖ニギハヤヒノミコトが降臨されたという噂が峰に近く、天の川が流れ、地味豊かな田野に恵まれた甘し邑であった。自由参拝。また大きな木も残された境内や周辺の田んぼの残る風景を眺めて散策。大倭とは縁深き地であり親戚を訪ねてきたかのよう……。

磐船駅に戻り3つ向こうの長尾駅へ。徒歩10分、インド料理「ミラン」での昼食。「林は食べ物で文化行事に人を釣っている」という批判もものは、安くて美味しいと楽しい宴となった。

そこから「伝王仁博士塚」は近い。王仁博士は5世紀始め、応神天皇の招きにより百済から来られた渡来系漢人であったようである。日本に漢字と論語を齎されたとされる。私には、大量の最新技術や知識を携えて、多くの仲間と共に、日本に新しき理想の邑を作るべく渡って来られた方と思えるのですが……。

また少し歩いて国内で唯一、江戸時代の姿のままで残る鋳物工場である「旧田中家鋳物民族資料館」を見学して、最後の目的地「時遊人」へ。ここは私の隠れ家の如き一押しのお喫茶店です。

こもれる魂魄の地を訪ねて (第43回)

額田王

兼田 隆

額田王は古代宮廷の女流歌人として、万葉集

に多くの秀歌を残しています。今回は彼女が残した歌と共に、その魂魄の地を紹介します。

額田王は10代後半で大海南皇子(天武天皇)と結ばれ、十市皇女を生みます。しかし絶世の美女

と言われる彼女を、兄である中大兄皇子(天智天皇)が妻の一人にしてしまいました。ちなみに話をとりまとめたのが中臣鎌足のちの藤原鎌足だと言われている、この事が数十年後におこる古代史上最大の内乱、壬申の乱の遺恨になったとも言われています。

○熱田津に 船乗りやむと月待てば

潮もかなひぬ 今はこぎ出でな

額田王

彼女の20代後半の歌です。中大兄皇子の妻となり、朝鮮半島に出兵(白村江の戦い)する兵士を伊予の熱田津の港から送り出そうとした時の歌です。熱田津で、船を出そうと待っている月が出て、潮の流れも良くなってきた。さあ今こそ船出の時ですよ、という意味です。

現在、愛媛県松山市古三津の久枝神社には、彼女の歌碑とその時の情景を描いた出兵の絵図(写真①)が奉納されています。近くには熱田津の港と言われる松山港(写真②)があり、当時を偲ぶことができます。

○苗さす紫野行き 標野行き

野守は見ずや 君が袖振る

額田王

○紫の にほへる妹を 憎くあらば

人妻ゆゑに われ恋ひめやも

大海南皇子

額田王30代半ばの歌です。中大兄皇子から即位し天智天皇となった夫のお供をして、蒲生野(現在の滋賀県八日市市あたり)で男達は狩を、女達は薬草を摘んでいると、かつての夫である大海南皇子が大胆に袖を振って愛のサインを現します。彼女はうれしく思う反面、兵士達や夫に見られてしまうでしょ……というドキドキした想いに対して、大海南皇子は人妻ではあるけれども今でも愛しく想っているよと言う問答歌になっています。(諸説はありますが)

東近江市の万葉の森・船岡山公園辺りが蒲生野だと言われており、幅12m・高さ3mの薬蕨を描いた陶板のレリーフ(写真③)は見ごたえがあります。

童王町の妹背の里には2人の銅像(写真④)があり、依然として変わらない2人の心の絆を感じることができるかもしれません。

天智天皇が没した翌年、彼女が40代前半に壬申の乱はおこりました。元夫である大海南皇子と、娘十市皇女の夫である大友皇子との皇位継承をめぐる戦いでした。戦いは大海南皇子が勝利し天武天皇として即位されます。敗れた大友皇子は自害されました。



額田王は未亡人となった十市皇女と共に、天武天皇の国作りを静かに見守っていきます。それから6年後、波乱にとんだ人生を送った十市皇女が突然亡くなります。奈良市高畑町にある比売神社(写真⑤)は十市皇女を祭神として祀っており、比売塚とも云われています。愛し愛された人、娘さえも、この世にいなくなった額田王がその余生をひっそりと送り、亡くなった寺跡があります。明日香村栗原の栗原寺跡(写真⑥)がその場所と伝われます。晩年、緑に包まれた山里の高台で額田王は、何を想って暮らしたのでしょか。最後に明日香村野口に額田王の墓(写真⑦)と伝わる場所があります。西向きに建てられている墓の先に見えるものは、かつての夫の天武・持統天皇合葬陵でした。

新こころとからだシリーズ(15)

神奈川県川崎市

日比野 純子

自分の健康は自分で保つ

疲れたとき困ったときに活元運動かげんをしてリフレッシュしてきた。調子が落ちると足湯あそくをし、気力が萎えると熱い風呂に入った。自信が持てないときは気合をかけ、神経が高ぶって眠れないときは肘湯ひじゆをする。漫然とした不調の時は気の欠けた処を見つけてそこで呼吸していると、一つ深く息が入り、こんな体では調子が出ないのも当然と可笑しくなる。汚れ(＝気枯れ)を除き、清い(＝気良い)状態に戻って、やっと日頃の疲れや偏りがわかり、気付けば体が自分で調整してくれる。

いづれも野口整体の知恵である。30年以上の付き合いだが、いい加減にしかやれていない(笑)。それでもこの間、医療機関の世話になる必要もなく過ごしてきた。

野口整体は、故・野口晴哉はるかが、日本伝来の療術と古今東西の健康法などを練って編んだ治療の技であったが、60年前に「人は本来自分の力で生きられるように生まれついている」との確信のもと、体力増進のための体育(からだそだて)の団体として社団法人整体協会を設立し、活動を展開したものである。心も体も時間軸において一つのものである。その一歩先に動く「気」を活用した健康法であり、魂に働きかけて元気を呼び起こす力を持つ。関心を持たれた方は、まずは『整体入門』(野口晴哉/ちくま文庫)を手にとっていたきたい。

晴哉先生は35年前に逝去されており、私はお会いできなかった。法主様と同じ1911年生まれ。世界観はほぼ同じくして、霊界が現界か、足場のかけ方が多少違うくらいと私は感じている。

体の観方や体調の整え方などは、二代目の裕介先生はじめとする弟子の先生方に教えていただいたが、非力を自覚するばかり……(笑)。その裕介先生も昨夏亡くなられた。ただただ夢のように嬉しい時間を過ごさせていただいたと感謝している。気落ちをめぐえないまま京都講習に参加した足で大倭神宮に参拝させていただき、今回寄稿のご縁を得た。因みに大倭とのご縁は野草社由来であり、最初に愉氣ゆきを教わったのは石垣雅設さんからだつたと記憶する。

野口整体は・活元運動・愉気・操法・体癖論たいへきろん・潜在意識教育などから成る。そのなかで、私がつとも親しんできたのが活元運動である。あくびやくししゃみ、寝相、さらに発熱や下痢、痛みのように、体が弾力を取り戻すために無意識に行っている働きを、誘導法をもって積極的に呼び起こし訓練して、より敏感な体にしてゆく体操である。準備運動をしてばかんとしていると、体が勝手に動いてゆく。使わずに動かすところを揺す振って弛めたり、縮んだところを伸ばすストレッチをはじめめたり。10分近く飛び跳ねても息は弾まず、ただ快い。誰一人として同じ動きはない。組み運動では、相手によって全く違う動きが誘導される。

この活元運動の指導資格を、2011年にいただいた。正直言うと、他に類がない運動なだけに慣れるまでに時間がかかる。頭が忙しいと発動しにくいのが現代人には難しいところで、新たな人が増えにくい。「シューキョー?」と引かれたり

するが、震災直後のこの時は無心に人を誘えた。物資の流通が滞り、放射能の恐怖に怯え、皆が文明に疑問を持ったあの頃、太古から身を守ってきた野生の力を奮い起こすのだという主張に、説得力が持てた。自分自身仲間を必要とし、ためらいがなかったし、実際、会のおかげで救われた。あれから5年。生きる意欲や自信は所有するモノに反比例して減るようだと思うが、とりあえずの安心を求めて人は隙間にモノを詰め込む。天心は隙間に宿るので、運動は出にくくなる。理屈をこね、情報量を増やして関心を持ってもらう人を増やそうとすると、まず自分が強張る(笑)。会の運営の方向に迷いが増えていた。

実は、活元運動の真の愉しみは、靈動に似たものであると密かに思っている。他者と組んでも間に何もなく、宙を舞うような快きのなかに漂っているだけ。知りもしないダンスを二人で踊ったりした後は顔を見合わせての大笑いとなる。清々しく終わったときは生まれ変わったような爽快感があるのみならず、渡る信号すべて青状態で物事がすらすら運んだり。生きていることが、ただ嬉しい。そのレベルの運動が出るには、まず会の場合にどれだけ気が満たせるかが肝要必須。『広げる』より、まず『深める』必要があるのだと、これを書きながら気づかせていただき、感謝である。

力足らずの私であるが、真摯に会を開こうとするとき、今は亡き先生方が力添えしてくださっている気がする。学んだことを伝えるとき、知識に血が通い、先生方とお会いした気持ちがよく見える。この鎖かな世界で生き続けるために、そして、この世界を生かし続けるために研鑽を続けたい。

活元運動、やってみたい方は是非お声かけください。

大倭千一夜

(其の十九)

昭和41(1966)年3月23日発行『大倭新聞』第19号より再録

霊界人との共同生活

法主 矢追 日聖 (満54歳)

——徒然なるままに心霊のくさぐさを喋る夜ばなし

霊人の力

そうだったな、この間の対談(『大倭新聞』第19号一面 ※編集部との対談「古代日本への招待」、野草社『やわらぎの黙示』所収)の時、古代社会では現界人と霊界人が同居して、その時代の社会を構成したというような話だったね。

今の倭倭だつてそれは言えるのだよ。この大宮の土地に縁りのある聖武天皇を始め、光明皇后それに孝謙女帝、これらに關係のあつた僧侶達が、身近な所では私達の家族だよ。他にも沢山いるからね。

神ながらの宗教の方は聖徳太子の持ち場となつていて、日蓮が補佐役といつたところ。社会福祉は光明皇后の持ち場。だから今日の大倭は私の才能や実力ではなく、全部が霊人の力といつても過言ではないと思うんだよ。

今ふと面白いことを思い出した。昔のノートを見てくるよ、しばらく待っててや。……

昭和二十六年八月二十八日のことだったよ。現大倭申孝会(大倭会の前身)の会長森下新蔵さん(四七歳)が、幼な友達の中野慶三郎さん(四二歳)と二人で、玉造の一心堂の奥さん(六三歳)を案内して大倭へ参られた時の話である。

当時はまだ飯教宮もなかったし、齋庭は自然の山のように雑木などが沢山茂つていた。私は大奥に植えてある榊(ヒモロギ)の所へ三人を連れて

いった。ここが拜所である。婦人は合掌して拝み始めた。二人は後の両脇に立っていた。

暫くすると、「フウ、フウ」と聞こえるような、大きく肩で息をし始めた。お出でなすつたと思ひながら私は一寸離れた所からこの情況を見ていた。段々面白くなつてくる。

荒々しく息吹きが繰返し、合掌した手は強く天に向けて伸びたり、それに抵抗する婦人の苦しきあがき、内からこみあげてくる何かを必死になつて押さえる様相は尋常ではなかった。

突然、大声が出た。
「この山(大倭の霊地)の姿は今になくなるぞよ」

婦人は眼をとじたまま、眺めるように頭を右に左に振りながら、「見るなら今のうち……。よく見ておけ。一心堂のババが言うてると思うたら大間違いだぞ」。

背中から冷水をかけられたようにブルブル震えている森下、中野の二人をにらみつけるような顔で向き直り、「このダイさん(日聖)は、マコト、いちぢ、神が永年もとめていた人なるぞ……。今にこの山は神の家敷になるがため、山の姿はなくなるのだ」。

一段と声をはり上げて、「ヨクヨク聞け……分かったか……」。

御両人は磁石にすいつかれた鉄のように、大地へペシヤンコに両手をついた。反射的に、「有難うございます……」と救いを求めるような、感き

わまったような声を出した。
このあと婦人、続いて、大倭へ案内してきた二人に対して、懇ろな感謝の詞や、大倭の諸神達にも謝辞を述べ、神憑りの状態から自分に戻られたのである。

変わる山

この奥さんはな、井戸の中で蚊が鳴いているような声で話す方で、よつぽど耳をすまさないと言き取れないのだが……森下さん達がたまげたのも無理はない。

何を叫んだのか、奥さんは全然知らない。話を聞いて驚かれたのだが、キョトンとした冷静な態度で、「私は全国の詣り所へは大抵まいます、こんなことは生まれて初めての経験です。何を言つたのか知りませんが、それは私が言つたのではありませんか、その点だけ御理解下さるよう……」と何回も弁解しておられたよ。

憑つたのは?か、それは奥さんの守護霊だよ。何さんて? それは言わない方がよい。

私の言いたいのは大倭へ初めて来て、こうした突然神憑り状態になつた人の口から出てくる言葉からも、現界人は霊人達と共に仕事をしていると感じとつてほしいということ。

現実を見てみ、昭和三十年には大倭安宿苑の敷地造成、ぼつぼつ山の形が変わつてきた。次いで奈良国際ゴルフ場設置の土地の買収が始まり、周囲の山の姿もなくなつてきた。阪奈道路がつくられた。大倭は今も変わりつつある。

霊人の中にはたまには先々のことを現界に分からせるようお喋りする者もあるからな。色々な性格をもつた霊人もいるので共同生活は面白いよ。

あじさい日誌

5月11日 朝、藤本宏秋さんの友人で伊勢神宮で神力車（人力車）の志事（仕事）をしているという松本祥平さんが教務本庁で杉本順一さんと歓談。

5月12日 午前10時から午後2時まで大倭病院「看護の日」イベント。健康チェック・骨密度測定・血管年齢・血圧測定・身長体重測定・握力測定・健康相談・介護保険相談等が行われ、雨模様の中、109人の方が来られました。病院の職員さん達の努力の賜物でしょう、地域の一つのイベントとして定着してきたようです。

5月15日 大倭神宮月次祭。
5月16日 午後、交流の家でF IWC定例委員会。8月下旬、フイリビンのハンセン病隔離島であるクリオン島でワークキャンプ開催予定とのこと。

5月22日 治郎丸明穂さん（奈

第39回
**大倭安宿苑
夏まつり**
7月25日(土)
午後3時～
於 あすか第1駐車場にて
お問合せ/安宿苑事務局(担当 舟橋)
TEL 0742-48-3221

良市)の案内で、(株)ナチュラルスピリットの村上久美子さんが大倭神宮に参拝した後、来邑。5月23日 大倭大本宮月次祭。この日は平成5年5月23日の月次祭法話をお聞きしました。今月号に掲載分です。

矢部顕さん(岡山市)に案内されて山陽新聞社の記者、阿部光希さんが来邑されました。5月26日 午後2時から(宗)大倭大本宮一般会計並びに大倭病院の決算会議が開かれました。

大規模な工事で車両の出入りも多かった後ですが、今年も紫陽花邑でホトトギスの初音。6月6日 大倭神宮月次祭。夜7時から大倭会館において邑倭の会が開かれました。

大倭安宿苑では
6月7日 菅原園交流ホールで第37回目となる法人卓球大会が盛り上がりしました。
(菅原園)
5月21日 総勢26名が参加した

「菅原園オセロトーナメント」決勝戦。4〜5ヶ月続いた戦いの優勝者が決まりました。
(須加宮寮)
6月7日 卓球大会に住苑者・職員約40

名がエントリー。男子シングルの部の決勝戦は山下善男さんと西村照夫さんの須加宮寮同士の対戦となり、熱戦の末、山下善男さんが優勝。
(長曾根寮)
5月19・27日(デイ)ゆでたさつまいもをつぶしてスイートポテトのおやつ作り。

5月23日(特養)喫茶クラブあじさいに23名が参加。おやつとお茶の後は、「今日は何の日?」で過去の出来事や有名人を振り返ったり、歌や鳴子踊り。
(茂毛蒔園)
6月7日 卓球大会に職員1名・ご入居者6名が出席。ころがしダブルス・ころがしシングルの部では決勝戦まで勝ち進みましたが、手作りの太鼓で懸命の応援も及ばず準優勝。

特別試合として男子シングルスチャンピオンと女子シングルスチャンピオンによるハイレベルな戦いを見せて頂きました。
(八重垣園)
6月7日 卓球大会に参加した男女2名の入居者が共に優勝して2連覇を達成しました。

青森県弘前市 石田 勝利
5月号表紙に私の「鳥海山と桜並木」の写真を使ってくれてありがとう！ 世界一長い桜並木と認定されました。
4月、27年間の念願がかなっ

て沖縄久高島へ行ってきました。久高島の「イザイホー」(千年だけに行われる女だけの祭儀)は1978年で途絶えているが、その祭文・呪文はアラハバキ・アイヌ・古代津軽に通じる。
昨年4月「ニュース報道」で、琉球人とアイヌ人とDNAが同一と判る。私有地が無く、禁足地有り」とか、また今年3月「世界の宗教」で池上彰に紹介されたが、誰も居なかった。小躍りしたくなるほど楽しい世界をちよつと覗いてきました。

東光大祭 祭典のご案内
平成27年8月28日(金曜日)・旧7月15日)
午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。正午から、奥津斎庭において祖霊祭が行われます。祖霊祭が終わり次第、拜殿に教長さんをお迎えして東光大祭が行われます。祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡しします。

あんない

*月次祭(大倭神宮)
7月6日(月) 午後2時より大倭神宮にて。
*大倭会主催第558回祝会
7月12日(日) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。
*月次祭(大倭神宮)
7月15日(水) 午後2時より大倭神宮にて。
*月次祭(大本宮)
7月23日(木) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。

祖霊祭のあいだ拜殿では法主様の東光大祭でのご法話や紫陽花邑の記録映像等を聞いたり見たりしていただきます。

【注意】
祖霊祭の経木への書き込み受付は8月3日までとさせていただきます。